

第4回奈良市子ども・子育て会議の概要

開催日時	平成26年2月26日(水) 午前10時～正午
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第22会議室
議 題	1. ニーズ調査結果報告書(案)について 2. 第3回事業計画策定部会の審議報告について 3. 平成26年度の方向性について 4. その他
出席者	出席委員12人(欠席委員2人)・事務局10人
開催形態	公開(傍聴者:なし)
担当課	子ども未来部子ども政策課
議事の内容	
1. ニーズ調査結果報告書(案)について 事務局より、平成25年に実施したニーズ調査の結果報告書イメージについて、資料1に基づいて説明を行った。	
〔質疑・意見の要旨〕	
和田委員	<p>解説文はグラフを見たら一目瞭然なものもあるので、意味のある場合に書けば、ボリュームを減らすことができ読みやすいと思いました。次に問6の「お子さんの子育てを主に行っているのはどなたですか」という質問で、「父母ともに」が47.5%であるにもかかわらず、その前の「このアンケートに記入したのは誰ですか」という質問に対しては母親が90%以上というところに矛盾を感じまして、父母ともに子育てをしているのに、このアンケートを書いた90%以上が母親ということは、後半に出てくる子育ての悩みという部分はほとんどが母親の悩みになってしまい、父親の悩みが汲み出せていないと感じました。このようなアンケートを出される時は、父親向けと母親向けの2通出すようにすれば、父親の悩みも汲み出せて、母親から見た子育て環境と父親から見た子育て環境について汲み出せるのではないのでしょうか。もう一点、後半のところで母親の就労状況によるクロス集計が出てきますが、父親の就労状況によるクロス集計が出てこないという辺りが、まだまだ子育ての責任が母親に偏っているということをこのアンケートから感じてしまいます。</p>
栗本委員	<p>参考資料のグラフですが、比較をしたいので、できれば項目を揃えていただきたい。前は年齢の区分がなかったと思いますが、今回も年齢の区分なしでグラフができるのであれば比較しやすいので、出していただければありがたいです。あと、その他の意見で貴重な意見が多いと思うので、こんな意見がありましたということに記載していただければ参考になると思います。</p>

掘越委員 概要版であっても結果でどういうことが言えるか、それを見ればだいたいのがわかる、というものを1枚入れていただければ内容がわかりやすいですし、後から細かくなっていても大丈夫だと思いますので、お願いしたいと思います。

和田委員 他市でもアンケートを取っていますが、回収率が4割というところが多いので、この6割は素晴らしいなと思います。父親と母親を両方載せてほしいというところですが、育児休業のページのように父親と母親を完全に併記しているところを見ると、いびつな状況がすごくよくわかります。クロス集計についても、父親の就労状況も載せることでいびつさや偏りを感じやすいので、偏っていることを載せることが大事だと思います。

会長 この報告書が今後エビデンスになっていくわけですが、集計で終わるのか、奈良市として特徴的なことを見せるようなレイアウトにしていくのか、事務局でも議論していただければと思います。回収率についても、さっと読むと気付いてもらえませんが、0～2歳で6割ということはなかなかありませんので、円グラフで表すなどして「これだけ協力をいただきました」ということを最初に挙げるなど、検討していただければと思います。

亀本委員 調査結果をまとめる時は、分析をして奈良市として調査結果から見えてきた課題はこれ、奈良市の特徴としてはこういう評価点があるというようなまとめ方をされる予定はあるのでしょうか。この調査の目的は、次の5年間の計画を立てるための資料としてお願いしたいということでしたので、奈良市としては結果から見えてくることはこういうことだということをはっきりと出さないと、一生懸命協力した人からすると、どうなっているのかと思います。特に自由記載欄には切実な要望や貴重な意見がたくさん出されていました。自由記載に書くということはエネルギーがいることですので、思いを必死に書いている人たちにも理解を示した形で、奈良市としての見解やまとめを調査結果から出すべきではないかと思いました。

副会長 回答者で専業主婦の方が多いの奈良らしいなと思います。5年前と比較して次の5年間を予想するときに、事務局ではどの家庭類型が変わっていくと予想していますか。例えば、これから専業主婦層からフルタイムやパートタイムが増えていくのでしょうか。私としてはフルタイム×パートタイム（長時間）が増えてくると思うのと、若い方たちと接していると、パートタイムのペアが増えてくるのだろうと考えていますが、事務局としてはいかがでしょうか。

寺田部長 新制度が始まりますと、いろんな教育・保育サービスの選択肢が増えて参ります。それに伴って、今までなかなか利用できない、二の足を踏んでいた方でもいろんな選択肢がありますので、預けるとい選択肢が増えてくると、やはりフルタイム×パートタイムにシフトしていくのではないかと考えております。

山岡参事 事例の報告ですが、去年あたりから市立の幼稚園において預かり保育を実施しております。利用の理由の中には子育て支援の側面として子どもを預けてゆっくりと過ごしたいというものが多かったのですが、幼稚園での預かり保育を実施することによってお母さん方も就労に出たいという意見も徐々に増えつつあるという傾向を把握しております。

岡本委員 今回の計画の中では、いろんなニーズをきめ細やかにデザインするということが大事だと思っています。どういう働き方をしていくためには、何が必要か、長時間預かってもらったり特別な保育が必要な家庭も当然多いだろうし、それがどれぐらいの分量なのかを今回出さないといけないと思います。家庭にいる方の一時預かりも増やしていかないといけません、23ページの幼稚園の預かり保育で、フルタイム×パートタイム（短時間）というものは、おそらく幼稚園に通わせているけども、保育を必要としている家庭が55.8%もあるということです。先程の説明にもあったように、幼稚園でもある程度就労できる状況を作っていけるといいますし、そこは認定こども園へのシフトも考えていかないといけないことかもしれません。

会長 多様な働き方にどう対応できるかということで、今までの1種類、2種類だけではなく選択肢が必要になります。介護保険でも同じように、大きな特別養護老人ホームが出てきた後、ショートステイやデイサービスが必要となり、さらに在宅ケアのホームヘルパーが出てきました。おそらく同じような流れになっていく可能性がある、どれだけ早くニーズをつかんでできるか、このニーズ調査というものは貴重品なので、単なるデータベースで報告して終わりではもったいないと思います。

横尾委員 育児休業や短時間労働制度ですが、制度がある会社や取得された方が意外と多かったのが驚きました。しかし、中小企業では制度がない会社もまだまだ多いと思います。幼稚園についてですが、園児数が激減しているところもあり、その幼稚園に預かり保育があれば、幼稚園に預けるのという話をよく聞きます。自由記述にもありましたが、延長保育も含めた11時間保育は子どもにとって負担かもしれませんが、フルタイムの共働き家

庭が増えてきていますので、保育時間の延長を希望される方が多いと思います。また、経済的な支援も求められている方も多いという印象を受けました。この自由記述は本当に貴重な意見ですので、反映していかなければいけないと感じました。

西山委員 幼稚園の預かり保育の利用率が高いということですが、私たちも現実把握しておりまして、保護者の希望もありますので、夏休み等の長時間預かりを今後の子育ての柱に据えたいと我々は考えております。保護者の中には、幼児教育も受けさせたいし、仕事とも両立させたいという方もいらっしゃいますので、さらに充実するためには、夏休みや冬休み等の預かり保育を行政を含めてフォローしていただければありがたいと考えております。

事務局 長期休業中の預かり保育ですが、市単独事業として、市内の私立幼稚園15園の中で長期休業中の預かり保育を実施される園に対して、補助金を交付させていただくという取組を25年度から始めております。

北岡委員 私は今子育ての真っ最中ですが、この2時間の会議でこれから子育てをしやすいようにという議論をしているということだけで、毎回ありがたいなと思って話を聞いているのですが、正直なところ疑問に思うことがあります。私が恵まれた環境で子育てをしているのかもしれませんが、今しか子育てを楽しめないで、リフレッシュ目的で預けたいという方がたくさんおられることに正直びっくりしました。あと、上のお兄ちゃんの時は保育園に預けて働いていましたが、周りのお母さん方は、金銭的に仕事をしないといけないから働いているのではなくて、働きたいから働いていました。自分も仕事が楽しいから働いていたというのがあって、今は幼稚園のお母さん方と一緒にいますが、働きたくないから働いてないわけでもなく、子どもを預ける場所がないから働いていないわけでもなく、保育園に預けるお母さん方のニーズと幼稚園に預けるお母さん方のニーズを今の会議で表すとしたら、働きたいのに預ける場所がないという問題ではないと考えてしまいます。幼稚園でも預かり保育が検討されていますが、そこまで長時間預けるお母さんは私たちの周りにはいません。楽しんで子育てをしているお母さん方が多いし、上のお兄ちゃんの時は保育園のお母さん方と仲が良かったんですけど、仕事をしながらも6時まで預けていたらかわいそうなので4時にお迎えに行くというお母さん方もいらっしゃいました。

話は変わるのですが、私も何年前にこのアンケートに回答したことがあって、自由記載のところ、私たちの意見というものは話をする場所もなかなかないので、やはり一生懸命書いたんです。そのところをもうちょ

っと大切にさせていただいて、全部とは言いませんが、こういう意見がありましたという欄を作っただけでしたらありがたいと思います。

会長 自由記述については、そのままの言葉で書かなくてもカテゴリー分けしてもいいと思いますので、是非反映していただきたいと思います。今のご意見は貴重なご意見で、いろんな多様性があるということです。

藤本委員 この報告書を見ていますと、やはり思っていた方向に進んでいるなどという思いを持っております。ニーズ的に27年度を目途に多様な事業が広がっていくということ自体はいいのですが、経済的には必要はないけれども少しでも働きに出たいという方が多くいらっしゃると思います。そういった中で、実質保育を必要としない家庭においても、枠があるのであれば、保育を受けられるということはいいのではないかと考えております。そして、先程ありましたリフレッシュですが、最近はおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に生活しないことが多く、子育てでストレスを通り越してノイローゼのようなお母さんが保育園に来られることもあります。そういった時に、保育園に入れなくても一時預かりでできるだけお預かりするようにしています。月日が過ぎてきますとストレスもなくなり、お母さんの顔つきが明るくなってこられます。そういった意味でも今後、本来ならば保育を必要としない家庭でも、ストレスを持った人、リフレッシュをしたい人の対応をしていかなければいけないと考えております。

竹村委員 子どもが大きくなるとともに親の願いが変わっていくということが書かれておまして、教育の問題、子どもの友達の問題等がありますが、統一して気になるのが、「子どもを叱り過ぎているような気がする」というところで、何のために叱り過ぎているのか、教育のために叱っているのか、親が自分の思うようにしたいために叱っているのか、子どもを伸び伸びと育てて社会のために尽くして欲しいという気持ちから叱っているのか、この資料からはわかりませんが、子どもを親が叱ることが当たり前のように思っている親が多いのではないのかと思います。特に若い方ですと、自分の思うようにしていこうとして、それがいい方向であればいいけれども方向を間違えると大変なことになってしまうなどということを危惧しています。

掘越委員 認定こども園について、自治体によっては行き詰っていたりストップしている所もある中で、これだけ求められているということは奈良市が頑張ってきた成果だと思ったところなので、その辺についてもコンパクトにまとめて解説を付けて出したらよいのではないかと思います。小規模保育については、新しい取組ということでまだ理解がそれほど広がってい

るわけではないと思いますが、特に0～2歳のほうで見ると、おそらく母親がパートタイムの場合等になるのかもしれませんが、小規模保育を求めているような結果に思われます。その辺りで3～5歳に比べると、0～2歳は切実なんだろうなと思いましたので、そんなところを取り上げたらいいのかなと思いました。

栗本委員　この調査の内容が基本的には親の状況がどうなのかということが前面に出ているのですが、これを見たときに親としてふと思うのが、例えば親の独りよがりのように親ばかりに注目され、それが本当に子どもにとっていいのかどうかということが調査の中で感じるができなかったら、疑問に思う親御さんも多いと思います。でも実際には、子どもにとってどういう形が幸せなのかということを考えるための調査だと思います。それをきちんとわかるような形で何か表現するということがすごく大事なのかなと思いますので、その辺りを少し意識していただくと、またこの調査票を見たときの親御さんの視線が変わってきますし、市が取り組んでいく施策についても、それに対して親がどう関心を持っていくかが変わってくると思いますので、子どもにとってどんなことが幸せなのかを考えているということを是非アピールしていただきたいと思います。

岡本委員　リフレッシュというのは、母親を甘やかすための制度ではなく、これから晩婚化が進んで結婚する年齢も上がってきます。そうすると同居していても母親が助けてもらえるばかりではなくて、育児と介護が一緒ですという悩みもどんどん増えてきています。そのような点を考えると、ストレスというのは子育てをしている母親がストレスを抱えていると、結局子どもがしんどい思いをするので、その子どものためにリフレッシュが必要なんですよ、という視点が必要だと思いました。

会長　就学前の子どもの育ちの保障をしないといけないということは、各委員から言っていただきましたが、一方で多様なニーズがあることも事実です。今だけではなく、これからどんどん子どもが減っていく5年後を見据えた事業計画を考えて、どう対応していくのかということが一番大事ですし、現状が維持できるわけでもないなので、その辺りも加味していただければと思います。

2. 第3回事業計画策定部会の審議報告について

事務局より、1月31日に開催した「第3回事業計画策定部会」の審議内容について、資料2に基づいて報告を行った。

〔質疑・意見の要旨〕

副会長 前回の部会でお話させていただきましたが、基本理念や基本方針は事業計画の大きな柱となりますが、事業計画と並行して奈良市の子ども憲法として、「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」というものを2年間かけて準備しています。そこで、事業計画で掲げられている基本理念と条例で定める基本理念が少しでも一致していたほうが、事務局で今後、計画の策定や周知の際に共通のキーワードがあったほうがいいのではないのかということで、「子どもにやさしいまちづくり」という文言を入れていただければという提案をさせていただきました。

この条例は、奈良市に住んでいる0歳から18歳ぐらいまでの全ての子どもを対象としており、子育て・子どもの支援の土台を作るということと、子どもにやさしいまちを子ども・市民とともに考えて未来への方向性を示すということで、奈良市らしさを強調するという市長の提案もあって、もうすぐ3年目に入るところです。一つは、事業計画と同じようにアンケート調査を行っています。二つ目は、奈良市でもひとり親家庭の調査を行ったと思いますが、それに加えて児童養護施設や母子支援施設、非行に走ってしまった子を持つ親の会へのインタビューや、不登校児を持つ当事者の方にインタビュー調査をさせていただきました。それから2年間に渡って公募で集まった子どもたちのワークショップという形で、最終的には私たちが作ろうとしている、子ども条例10箇条というものを作っていただいています。実はこういうところに子どもの代表が来て、提案をしたり説明会をしたりということで全国的にも画期的なプロセスで行っています。

「子どもにやさしいまち」というのは、ユニセフが提唱する子どもの最善の利益に則った自治体をつくっていきましょうということで、おそらく条例のネーミングにするのは奈良市が全国で初めてだろうと思います。「やさしいまち」の定義ですが、子育ては社会全体で取り組む、子育ての責任はもちろん保護者にありますが、社会全体で育てていきますよということと、それからどんな場面でも子どもたちの意見を聞きながら、大人とともにまちづくりを進めていくということをお大事にしております。また、奈良市は学習塾は多いのに遊び場と居場所が少ないんです。遊び場と居場所という項目を入れたことも画期的だと思っております、他市と比較してもほぼフルセットの条例を作るということで準備しています。

会長 「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例」を反映したらどうかということですが、その条例の検討委員会の委員長が浜田副会長なので、ご説明をいただきましたが、どこかでリンクさせる必要がありますし、条例という大きな骨子があるのに反映させないのもどうかと思いますので、同時並行で会議が動いていることをご認識いただければと思います。

<p>和田委員</p>	<p>部会でご意見の中で、「どんな子どもになってほしいのか」という子どもへのメッセージなのですが、「どんな大人になってほしいのか」ではないでしょうか。子どものあり方よりも、子どもの周りの環境としての大人のあり方のほうが問題なのかなと思いましたので、できればどんな子どもになってほしいかというよりは子どもの将来像という方向で考えていただければと思います。</p>
<p>亀本委員</p>	<p>子どもの貧困対策法が成立しましたが、問題は、親の貧困が子どもの貧困ということで子どもに連鎖しているということです。その子どもが将来大人になった時に、同じように貧困になっていくということが様々な分析データからも出されていて、今後5年間の目標を立てる時に、経済的な支援無しにはなかなか難しいと思います。私は次世代の頃から関わっているのですが、そこで貫かれているものは「どの子ども」ということで、どんな状況であっても子どもに罪はないわけであって、「どの子ども」という視点を今後も貫いてやっていかなければならないと思います。経済的な支援という部分についてもアンケート調査の自由記述にも切実なケースが出てきていますので、それを応援していくという姿勢が大事だと思いますので、今後の目標や施策にもそういう姿勢がわかる文言になるようにご検討いただければと思います。</p>
<p>3. 平成26年度の方向性について 事務局より、平成26年度の子ども・子育て会議の方向性について、資料3に基づいて説明を行った。</p>	
<p>【質疑・意見の要旨】</p>	
<p>会長</p>	<p>今後、全体会に並行する形で先程の事業計画策定部会を引き続いて行い、新たに認可・確認の基準と支給認定と利用者負担の会議ということで、26年度はかなり具体的なことを審議しないといけません。部会を作ってはどうかという事務局のご提案です。部会の委員については、事務局と相談して指名するという形でご一任いただけたらということでございます。</p>
<p>4. その他 子ども未来部長の挨拶の後、事務局より次回会議の日程について説明を行った。</p>	
<p>資料</p>	<p>【資料1】 ニーズ調査結果報告書イメージ 【資料2】 子ども・子育て支援事業計画素案骨子作成に向けて 【資料3】 平成26年度の方向性について</p>